

# 筑後吉井グランドビジョン

2020年3月

# はじめに

## うきは市は最近活気づいています

フルーツや古い町並みなど、うきはの魅力をメディアで目にする機会も増え、観光客数は増加傾向にあります。うきはの風土に魅せられ、ここでの生活を選んだ若者たちの活躍にも目を見張るものがあります。

一方で、依然として人口は減少の一途を辿っており、事業所の数も減り続けています。これは、うきは市の基礎が次第に沈下しており、なし崩しのうきは市を持続させることが難しくなっていることを示しています。

## うきは市の未来を構想する

このような状況の中、私たちは今、何をすべきでしょうか。

まず、私たちに必要なのは、現状を踏まえた上での未来を構想すること、すなわち、うきは市のグランドビジョンを描くことが何よりも必要であると考えました。このビジョンを基礎として議論を重ね、取捨選択を行いながら望ましい未来を戦略的に構築することが必要なのではないでしょうか。

しかしながら、ここで描かれたグランドビジョンは決して完成形ではなく、実現が約束されたものでもありません。本ビジョンはあくまでたたき台です。これをきっかけに、官民が議論を重ね、ビジョンを上書きしながら、より良い未来の実現へとむけて一步を踏み出すことがビジョン策定の狙いであり、希望です。



# うきは市の現状 \_ 人口の観点

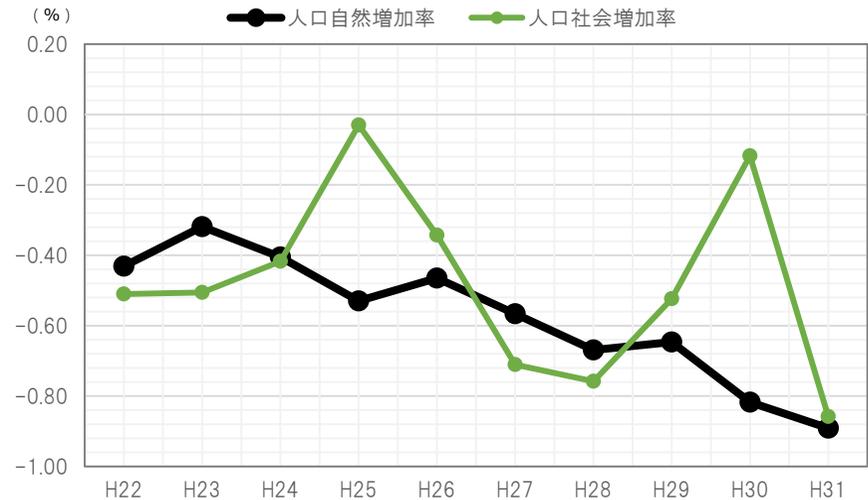
## 人口の社会減がうきは市における課題の一つ

人は社会の基礎です。人口は地域社会の活力をはかる重要な指標であると言えます。

うきは市では、ここ数年人口減が進んでいます。人口減はうきは市に限ったものではなく、一部の市町村を除いた日本全体のトレンドですが、うきは市の自然減少率・社会減少率は他の類似自治体と比較しても著しい部類に位置しており、地域の活力が急速に失われていると言えます。

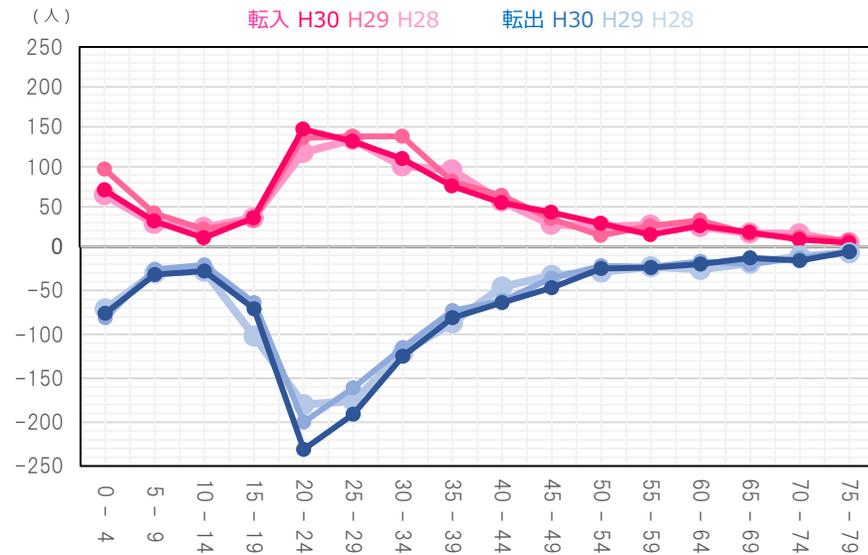
ところで、この人口減を緩和するには、社会減を減らすのが一つの手だてとなります。うきは市においては、久留米市や福岡市など、近隣大都市への流出が社会減の一因となっており、特に地域の活力を担う20代、30代の流出が大きな課題であると言えます。幸い、うきは市では30代の流入も大きいことから、この流入を最大化する施策が望まれます。

対前年比人口増減率



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

うきは市転入出数



出典：福岡県「人口移動調査 福岡県の人口と世帯年報」

# うきは市の現状 \_ 子育ての観点

## 小学校や文化施設の活用がポイント

20代や30代の子育て世代にとって、子育てがしやすい環境かどうかは非常に気になるポイントです。

子育て環境に目を向けると、うきは市では、待機児童数が例年ゼロになっており、整備量も増やす方向であることから、都市部にありがちな育児休業などはなく、未就学児を預ける環境は整っているといえるでしょう。

一方で、うきは市の子育て世代の多くが言う、「遊ばせる場所がない」というのも事実で、特に町中において、公園や広場などが乏しいという課題があります。

その反面、小学校や公民館、資料館といった文教施設は充実しており、将来的には余剰施設となる可能性も高いことから、子育てというテーマを視野に、それらの既存ストックの活用を検討することが必要だと考えられます。

## うきは市待機児童数

	年齢	2019年4月1日	2020年4月1日	2021年4月1日
		実績	見込・計画数	見込・計画数
申込者数 (保育ニーズ)	0歳児	24人	25人	29人
	1・2歳児	218人	243人	250人
	3歳以上児	548人	580人	570人
	合計	790人	848人	849人
利用定員数 (整備量)	0歳児	47人	25人	29人
	1・2歳児	202人	243人	250人
	3歳以上児	566人	580人	570人
	合計	815人	848人	849人
待機児童数	0歳児	0人	0人	0人
	1・2歳児	0人	0人	0人
	3歳以上児	0人	0人	0人
	合計	0人	0人	0人

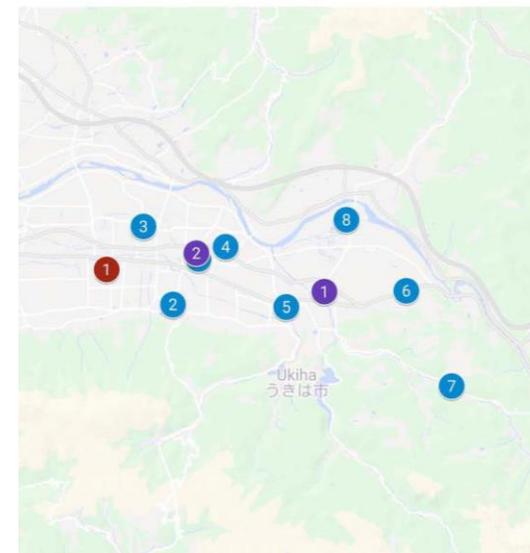
出典：うきは市 「子育て安心プラン実施計画」

## 子どもの進学先

- ① うきは市立吉井小学校
- ② うきは市立福富小学校
- ③ うきは市立江南小学校
- ④ うきは市立千年小学校
- ⑤ うきは市立御幸小学校
- ⑥ うきは市立山春小学校
- ⑦ うきは市立小塩小学校
- ⑧ うきは市立大石小学校

- ① うきは市立浮羽中学校
- ② うきは市立吉井中学校

- ① 福岡県立浮羽研究真館高等学校



# うきは市の現状 \_ 産業の観点

雇用環境は悪化傾向だが、小資本による起業は活況

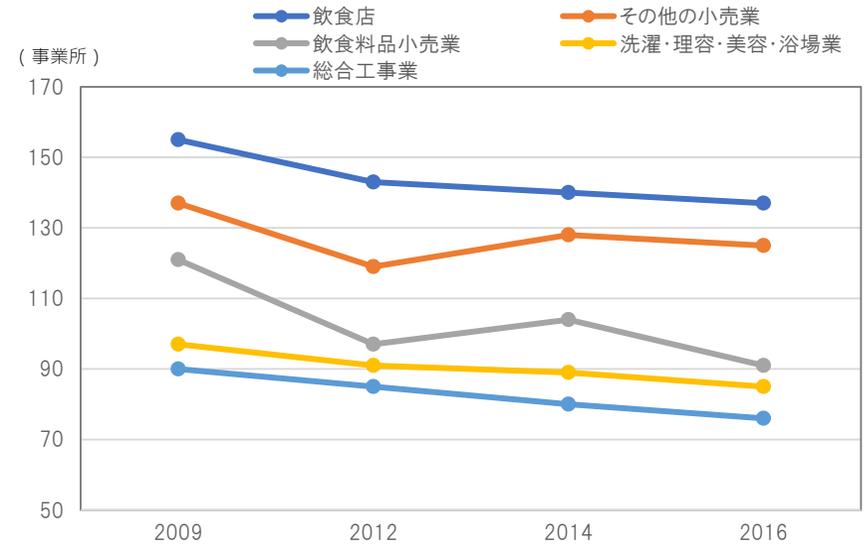
働くことなくして、人は生きていくことができません。働く環境づくりは地域の活力創出に必要不可欠です。

うきは市では、事業所数と会社数の両方が減少傾向にあるなど、雇用環境は悪化しています。

一方で、飲食店を筆頭に小資本による新規創業は増加傾向であり、特に筑後吉井地区での新規創業が増えています。これらの新規創業店舗は、筑後吉井の伝統的な町並みと調和して、ここにしかない魅力を発揮しており、生活面と観光面の両面で地域社会に良い影響をもたらしています。

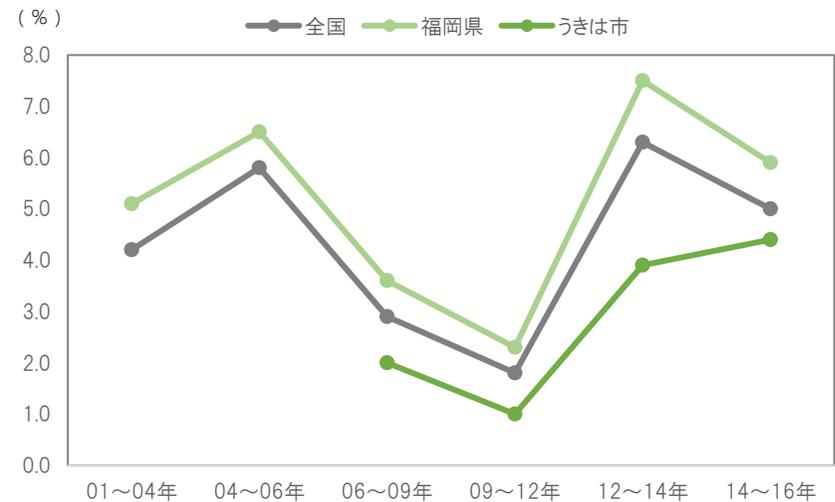
うきは市の風土の魅力を活かした新規創業については、官民の両面から積極的な支援を行うことが引き続き望まれます。

うきは市事業所数の推移



出典：総務省「経済センサス-基礎調査」  
総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

創業比率



出典：総務省「事業所・企業統計調査」、総務省「経済センサス-基礎調査」  
総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

# うきは市の現状 \_ 観光の観点

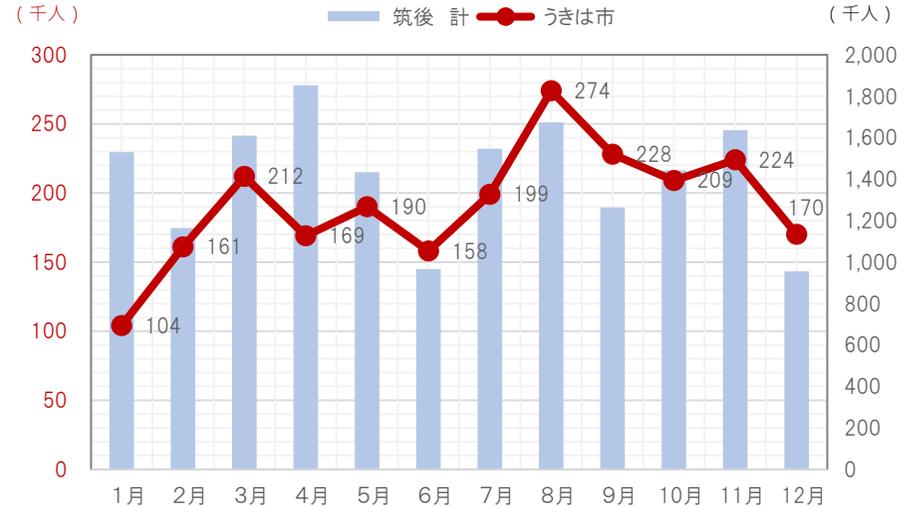
## フルーツに強み、滞在時間の延伸が課題

日本の数少ない成長産業は観光業です。観光の視点はますます重要になっています。

うきは市は、フルーツを筆頭に、歴史的風致や飲食店など、観光資源に恵まれていると言えます。特に、フルーツを目的に訪問する人は多く、フルーツの購入に関わる利用金額も相応になっています。フルーツ以外の観光資源の認知も高まりつつあり、今後も期待が持てます。

一方、特に吉井地区では特徴的な飲食店を有しているにも関わらず、飲食での消費金額はまだまだ低い水準にあります。これは、滞在時間が短いことと密接な関係があります。お酒を含む夜の食事を楽しんでもらう。フルーツを買うだけでなく、農業も含めて楽しんでもらうといったように、滞在時間を伸ばし、うきは市をより一層知ってもらい楽しんでもらう施策が必要不可欠でしょう。

## 観光入込客数の推移



出典：福岡県「福岡県観光入込調査」

## 地点別消費金額

		(%)							(平均円)
		千円未満	千円～3千円未満	3千円～5千円未満	5千円～1万円未満	1万円～1万5千円未満	1万5千円以上		
買い物代	道の駅うきは(n=581)	3.1	39.6	28.4	20.0	6.4	2.6	3,836	
	にじの耳納の里(n=214)	3.3	39.7	30.8	21.0	4.2	0.9	3,626	
	観光会館土蔵(n=33)	6.1	45.5	39.4	3.0	3.0	3.0	2,915	
食費	道の駅うきは(n=581)	19.9	65.2	10.3	2.5	2.1		1,730	
	にじの耳納の里(n=214)	5.0	76.7	8.3	8.3		1.7	2,211	
	観光会館土蔵(n=33)	3.0	75.8	15.2	6.1			2,142	

出典：うきは市「うきは市来訪者アンケート調査に関する企画・運営・分析業務 R1」

## うきは市の現状 \_ まとめ

### 住む人の活気が好循環を作る

ここ最近、うきは市は活気付いています。その活気をリードしているのは20代・30代のチャレンジングの起業家たちです。

20代・30代の若年層は人口動態的な観点ばかりでなく、トレンドを担う非常に重要な世代であることから、これまで以上に彼らが住みやすく挑戦しやすいうきは市になることが重要です。そのためには、起業を支援する施策や、「うきはで子育てしたい!」と思える環境整備も必要となってきます。

うきは市の観光産業には大きな伸び代が考察されます。若年層の創造性が観光産業に誘導されることで大きな実りが得られるでしょう。そして、彼らの挑戦と創造性が、住む人も観光客も、新しい起業家も引き付けるようなポジティブなスパイラルを生み出すことでしょう。

\\ 20代30代を惹きつけたい //

\\ 若年層の起業に期待 //

\\ 観光産業に伸び代 //



# うきは市のビジョン \_ 基本方針

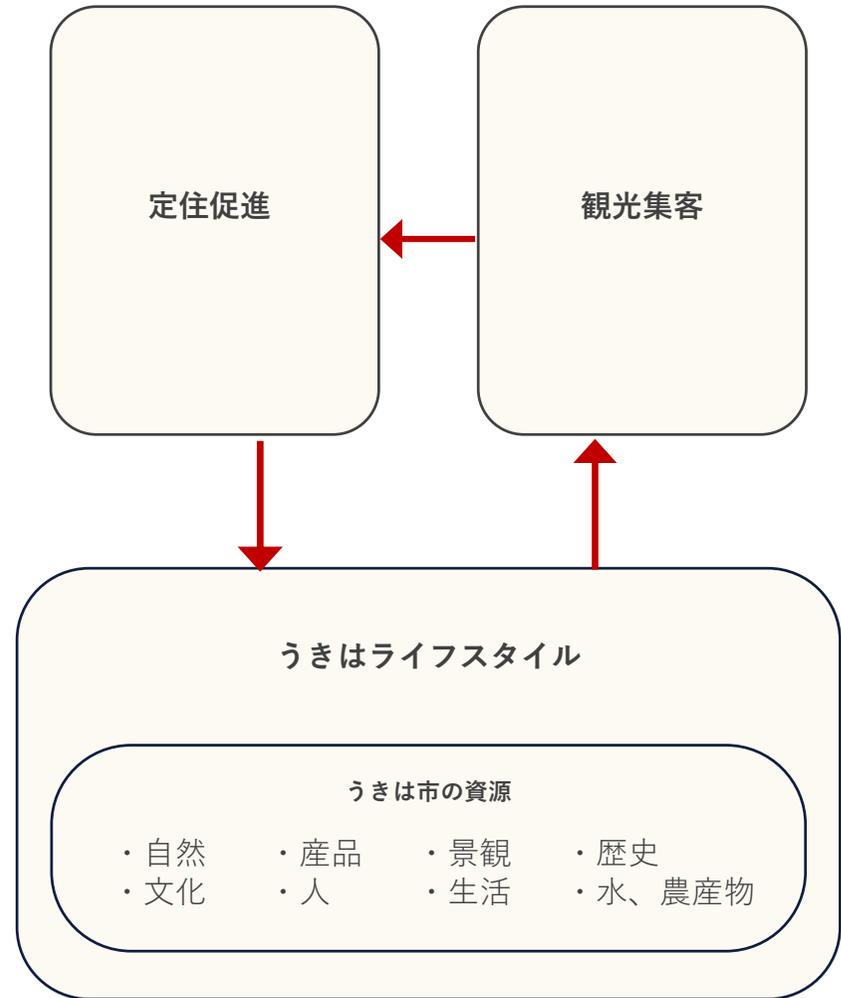
うきはライフスタイルがすべての起点になる

うきは市の観光は可能性に満ちており、うきは市のビジョンとして観光集客の視点は必要不可欠です。一方で、それ以上に重要なのは、うきは市での生活、すなわち「うきはライフスタイル」を盛り上げることだと考えています。

うきは市では、若年層を中心に、地域資源を活用しようという機運が高まっています。私たちはこの機運を大切にしたいと思います。

地域資源がうまく活用され、そこに住む人たちが生き生きと暮らしていることは、住む人の満足だけでなく、一過性ではない観光集客を実現すると考えるからです。

そして、この「うきはライフスタイル」が、うきは市で生活する憧れを作り出し、ゆくゆくは定住・移住を促進する。そんなビジョンを基本方針として、具体的には何をすべきかを考察していきたいと思います。



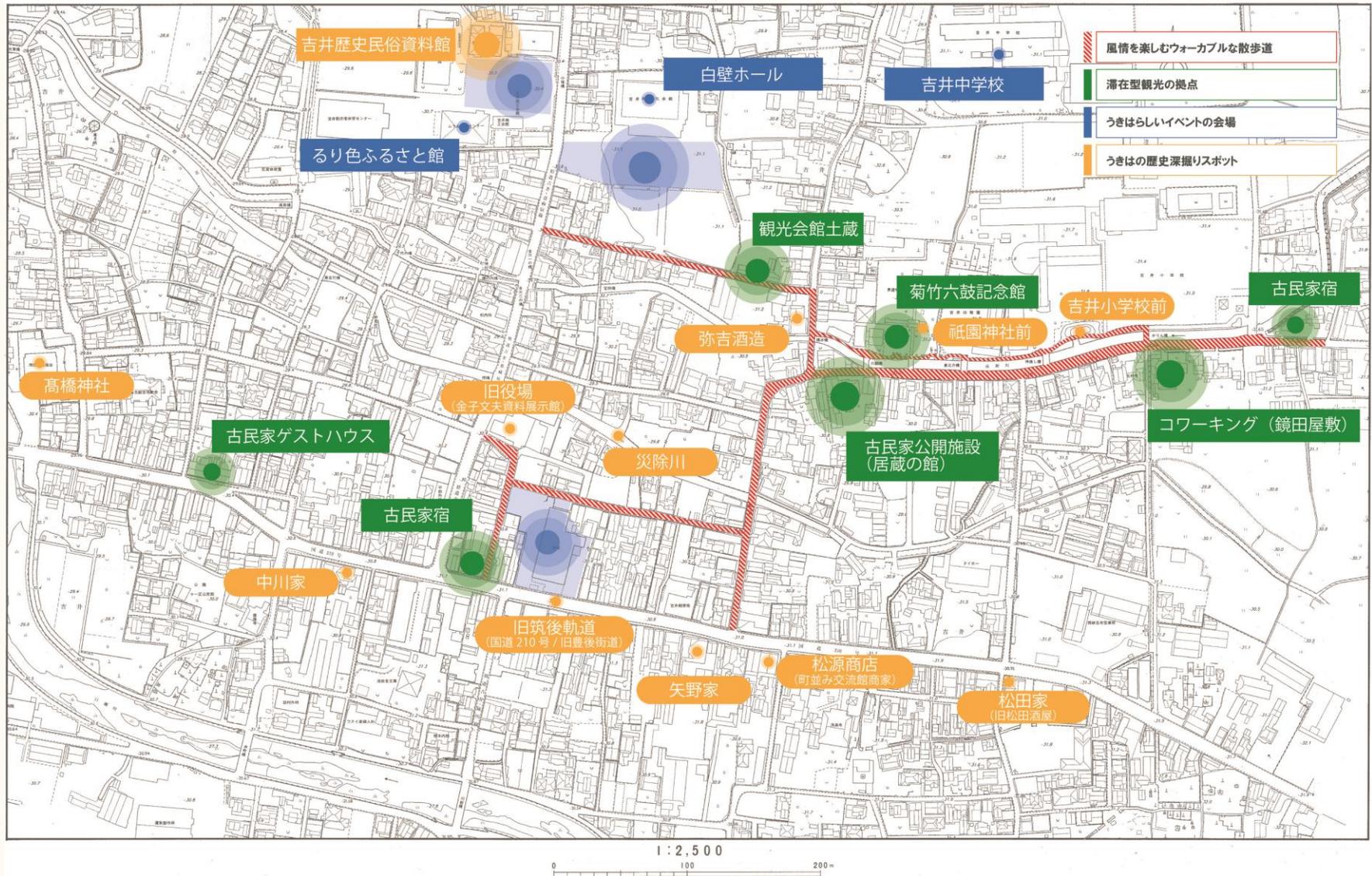
景色や産品などのうきは市の資源そのものだけでなく、うきは市の資源を活用した生活スタイル<うきはライフスタイル>が観光集客のフックとなることで、うきは市での生活に対する憧れを形成し、移住定住を促進するという考え方。

# 筑後吉井地区エリアビジョン

## 旧街道沿いの魅力をさらに向上する

筑後吉井地区では、旧街道沿いを中心に歴史的風情が残され、市所有物件も点在しています。

このため、この旧街道沿いをビジョンの中核的エリアと位置付け、ここでの観光機能や市民活動機能の強化を検討します。そして、何よりもこの特徴のあるエリアの魅力をもさらに向上するための組織体の検討を行います。



## 施策\_ウォーカブルな街道に

歩きやすい歩きたくなる街道が基本

旧街道を《ウォーカブル》な通りにして、筑後吉井地区の歩きながら楽しめるようにします。「歩きやすい」通りとするために、自動車の交通量のコントロールするほか、「歩きたくなる」通りとするために、街道沿いに目的性のある店舗の誘致などを行います。

### 施策のポイント

- 交通量を抑制するなど「歩きやすい」道を作る
- ライトアップや目的地づくりで「歩きたくなる」道を作る



## 施策 \_ 古民家宿泊施設の設置

### 古民家宿にうきはの魅力を凝縮します

滞在時間が短く、消費金額が少ないといううきは市の弱点を補うため、筑後吉井地区に宿泊施設を誘致します。うきは市にしかない宿泊施設とするため、筑後吉井の古民家を利用した歴史的風情にひたれる古民家宿を基本とします。

#### 施策のポイント

- 滞在時間と消費金額を伸ばす
- 筑後吉井地区の古民家を利した宿泊施設を誘致する



## 施策 \_ 市所有物の活性化

市所有物件をこれまで以上に活用します

街道沿いには、記念館や屋敷など、雰囲気のある市所有物件が点在しています。これらの物件の可能性を最大化するために、活用の障壁を取り除くとともに、指定管理者制度などの制度を検討し、民間が使いやすい物件へと生まれ変わらせます。

### 施策のポイント

- イベント利用、長期貸し出しなど、多様な用途に応える
- 指定管理、業務委託など公民連携スキームを検討する



## 施策\_吉井らしいイベントの開催

筑後吉井らしいイベントで来訪きっかけを作ります

フルーツが有名なうきは市ですが、筑後吉井地区の認知は発展途上です。認知の取っ掛かりとして筑後吉井でイベントを開催します。筑後吉井らしいものとするため、“古さ”をテーマとして、古本やレトロ映画祭など、筑後吉井の町並みと相乗効果のあるイベントとします。

### 施策のポイント

- イベントを開催し、筑後吉井地区訪問のきっかけを作る
- まちの雰囲気を引き立たせるイベントとする



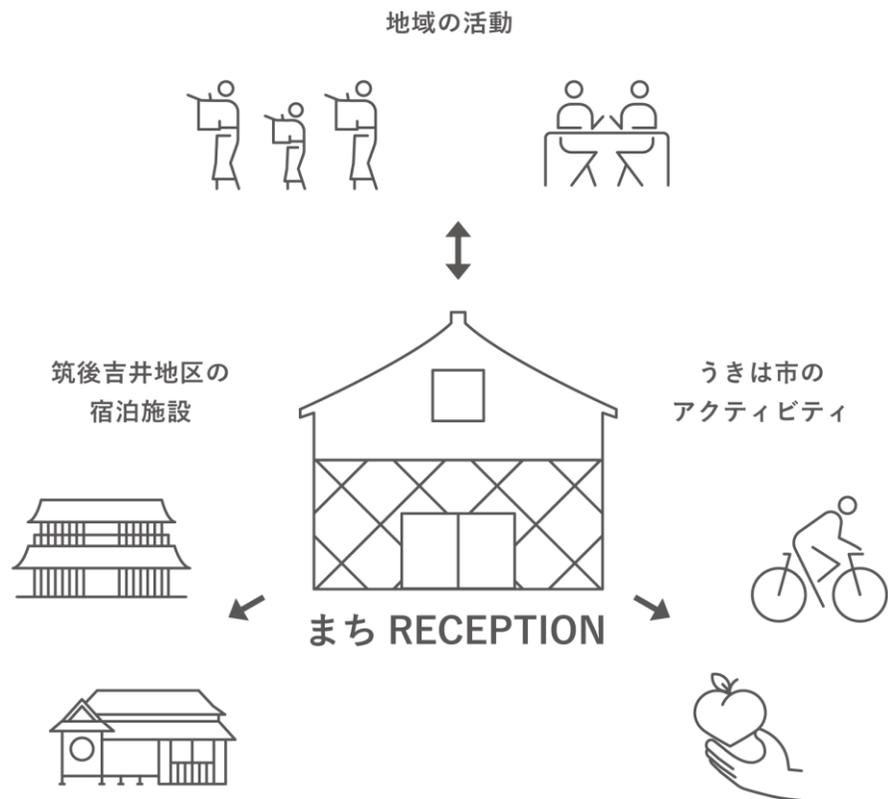
## 施策\_まちレセプションの設置

まちぐるみで来訪者をもてなします

筑後吉井では、まちぐるみの“おもてなし”を提供します。これを実現するため、「まちレセプション」を設置します。筑後吉井エリア全域の古民家宿の記帳を起点として、時間の過ごし方を案内し、まちの“入り口”として機能します。記念館や資料館にレセプション機能を導入することで歴史や地域活動の案内も行います。

### 施策のポイント

- まちぐるみで“おもてなし”を提供する
- レセプションが時間の過ごし方を提案する
- レセプションは地域コミュニティと一体化させる



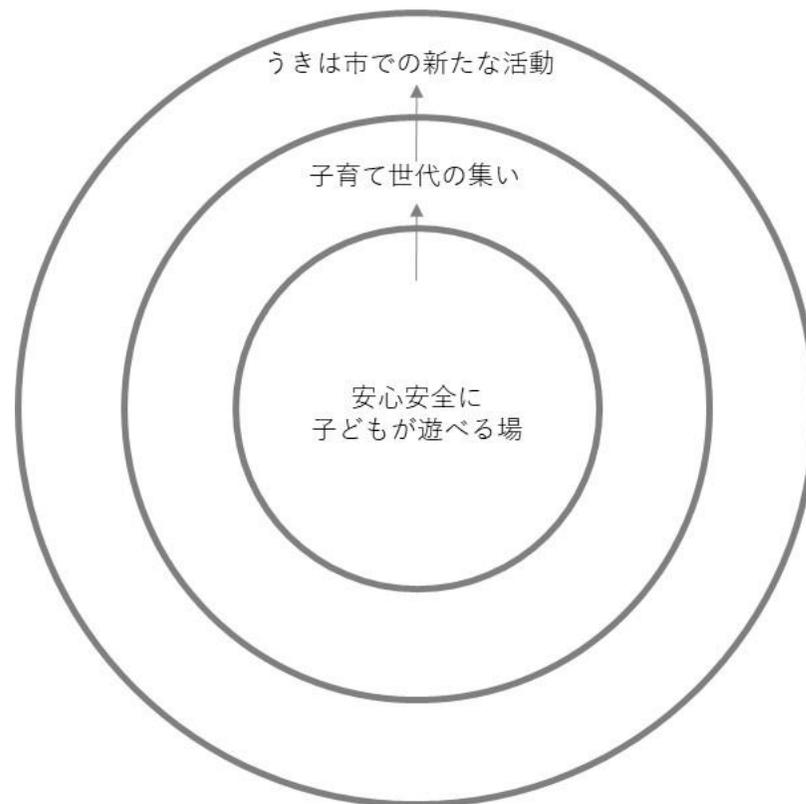
## 施策\_子どもの遊び場の設置

### 子どもの遊び場で大人を繋げます

「子どもが遊ぶ場所がない」。うきは市の子育て世代がしばしば口にする言葉です。この課題を解決するために、小さな子どもを安心して遊ばせられる場を作ります。ただ、そこは子どもが遊ぶだけの場所ではありません。起業家や転入者の中心的世代であるうきは市の子育て世代をつなげるプラットフォームとなるべく、ジョブカフェやビジネス相談の場所としても機能します。

#### 施策のポイント

- 小さな子ども（未就学児）が遊べる場を作る
- 子どもの遊びをきっかけに大人同士をつなげる場になる



## 施策\_うきは産業のPR

### 遊び場でうきはの魅力をPRします

子どもの遊び場は、絵本や木工おもちゃを沢山置いて、大人も子どもも、地元も観光客も楽しめる場とします。絵本や木工おもちゃの温かな味わいが、うきは市で過ごす時間を演出するだけでなく、うきは市が誇る林業と木材加工への興味を引き出します。

#### 施策のポイント

- 地元も観光客も楽しめる場とする
- 木工おもちゃなど、うきは市の資源とつなげる



## 施策\_ 歴史探索機能の強化

### 筑後吉井の歴史を浮き上がらせます

うきは市の魅力の一つが、この土地が歩んだ歴史です。一方で歴史との接点が限定的で、一部のファンに応えているにすぎません。そこで、この歴史の魅力を広く伝えるために、《まちなかミュージアム》という形で、歴史資料をまちなかに分散展示したり、歴史の語り部を増やすなどを検討します。

#### 施策のポイント

- 文化資源をまちなかに分散展示する
- 歴史を語る〈語り部〉の育成をする



## 施策\_ タウンマネジメント組織の結成

民間タウンマネジメントで吉井の活気を作ります

まちの魅力をさらに高めるには、《クイック＆クリエイティブ》な動きは欠かせません。そこで、民間主体のタウンマネジメント組織を計画します。タウンマネジメント組織は、古民家の管理運用仲介を核としてまちのブランドイメージを管理することで、一体的で活気あるまちを作り出します。

### 施策のポイント

- 筑後吉井地区の資産を管理する民間組織を作る
- 有形資産とブランド資産の両方を一体的に管理する

